



『ヒューマン・ハーバー“T.O”』

“Only as for giving it a way”

【“偉人間交流会”・『語ろう会』会長：小川 正】

北京(中国)一般庶民と一般日本人認識との温度差

2005/01/25

日本の方が一般論で中国を語られている場面で、日本と一般社会構造の違いを共通した認識の上で会話や判断がなされているのか？

私自身を基準にしても疑問を感じる事が多く在りますので、私が北京を訪ねる度に発見があります。それらの、事項をまとめてみました。

マンション購入	①収入証明提出による融資判断が無く、収入証明は不要です。 ②30%以上の頭金を払う事で、ローン設定(物件担保)可能です。
賃貸家賃契約	①当初3ヵ月分を支払う事で入居でき、2ヵ月使用できます。 ②2ヵ月経過し家賃の支払が無ければ、継続しないと見なされます。 ③2ヵ月単位で支払われ、日本で言われる契約単位が2ヵ月のようです。
電気・ガス	契約カードが存在して、そのカードに日本のJRスイカの様に事前チャージ入金するのです。 入金残高が不足すると、その時点で供給がストップするのです。
水道	後払い。銀行口座引落しが主ですが、引落額の事前連絡は無いのです。
電話	①北京市住民は、水道と同様の後払いが可能。 ②北京市外住民が所有の電話は、カード前払い方式のみで通話可能。
インターネット回線	大型マンション・ビルに入居されている場合は、ビル自体に光&ADSL回線が設備されて月額契約で利用されているが、一般の方は電話と同様か把握できておりません。

『別荘』

日本では都会の喧騒から離れた「避暑地」「温泉地」などのイメージが強いのですが、全く異なります。北京第3・第4・第5環状道路周辺の新規開発地区に多く見受けるのですが、北京中心部より車で15～50分程度の距離なのです。又、中心部(カナダ大使館傍)にも見受けられます。

北京の別荘の多くは「〇〇荘園」・「◇◇荘園」・「△△荘園」・「□□□苑」と表示されており、限られた区画を屏で囲んで殆どは出入り口が1ヶ所で門番が常駐して、関係者外の侵入をチェックする体勢を整えているのが北京で言う『別荘』なのです。

別荘単位で自家発電し荘園内に供給しているのですが、私の経験では暖房の温度は荘園内発電所で一定管理され個別住宅内で調整不可でした。…電力量を管理する為らしいです。

【これら細かく生活場面に接して見ると、まだまだ大きな隔たりを確信します。】

更に、根本的には中国のみならず広大な面積を有するアメリカ・オーストラリアなどは、州・省・市単位で税制・法律なども異なり日本の様に1つで語れない要素が多いに関わらず、日本人は「中国は、」「アメリカは、」などと、1つで語る傾向を強く感じております。…おかしい！

特に中国では、標準語は「北京語」ですが「広東語」・「上海語」・「四川語」などと地域差があり、中国国内で全く通じない言語が存在しているのです。

私が直面した事ですが、3人の中国人が会話しているのですが、スポット的に2人が1人の悪口を言っている様子なのです。そこで私はその2人に「大丈夫？」と問いかけましたら、簡単に「あの人は四川語が分からないから！」と簡単に回答するのです。…こんな国ですよ！

余談ですが2004/12/14に、初めて日本人集中エリアに行きました。

日本大使館周辺の1帯ですが、物価は少し高いらしいです。

日本人向けの情報誌も初めて見ましたが、数種類の雑誌がありましたが、殆どの広告は「飲食店」・「マッサージ店」でした。…何かしら、画一的で日本的ですね？